

衆議院財務金融委員会ニュース

H25.3.26 第183回国会第5号

3月26日(火)、第5回の委員会が開かれました。

1 金融に関する件(通貨及び金融の調節に関する報告書)

- ・通貨及び金融の調節に関する報告書について、黒田日本銀行総裁から説明を聴取しました。
- ・竹内財務大臣政務官並びに参考人に対し質疑を行いました。

(参考人) 日本銀行総裁 黒田東彦君
日本銀行副総裁 岩田規久男君
日本銀行副総裁 中曽宏君

(質疑者及び主な質疑内容)

小田原 潔君(自民)

- ・物価安定目標を設けて金融緩和を進めた場合に、実体経済の回復前に資産価格が高騰する恐れはないか、また、そうした事態への対処について黒田日銀総裁の決意を伺いたい。
- ・金融緩和の効果が雇用及び賃金の増加に波及していくことの重要性に対する黒田日銀総裁の認識を伺いたい。また、インフレターゲット政策を行った場合には、物価と賃金のいずれが先に上昇すると考えるか。
- ・実体経済が回復しても、それに伴う長期金利の上昇が我が国の財政状況を一層悪化させる可能性があるのではないかと考えるが、政府の見解を伺いたい。

岡本三成君(公明)

- ・日銀が買入れる長期国債を5年より長期のものに広げる可能性について、黒田日銀総裁の見解を伺いたい。
- ・説明責任の観点から、政策委員会・金融政策決定会合の議事要旨の発表までの期間を短縮すべきであると考えているが、黒田日銀総裁の見解を伺いたい。
- ・景気回復の目的が達成されれば、2%という「物価安定の目標」の達成にこだわらなくとも問題ないと考えているが、黒田日銀総裁の見解を伺いたい。

前原誠司君(民主)

- ・デフレは貨幣的現象であり、2%の物価安定目標の達成は日銀の責任である旨の安倍内閣総理大臣の認識について、黒田日銀総裁及び岩田日銀副総裁の考えを伺いたい。
- ・白川前日銀総裁の任期中にも日銀はマネタリーベースを拡大したが、消費者物価指数は上昇していないし、日銀当座預金の超過準備残高が増大するばかりでマネ

ーサプライの増大にはつながっていない。この現状に対する黒田日銀総裁の認識及び対策を伺いたい。

- ・日銀の長期国債の買入れに係る「銀行券ルール」を撤廃する可能性はあるか。撤廃する場合には、長期国債の買入れが財政ファイナンスとみなされないよう新たなルールを設ける必要はないか。
- ・大胆な金融緩和を行うとしても出口戦略を見据えておくことが不可欠であると考えているが、黒田日銀総裁の出口戦略に対する認識を伺いたい。

西野弘一君(維新)

- ・日銀総裁就任を要請された際の率直な感想を伺いたい。
- ・黒田日銀総裁から見て、これまでの日銀の金融政策における問題点について伺いたい。
- ・政権交代が起ころうと、責任を持って物価安定目標を達成すること及び白川前日銀総裁時代からの政策委員会のメンバーに対し新日銀総裁の政策理念を浸透させていくことが重要であると考えているが、黒田日銀総裁の見解を伺いたい。

松田学君(維新)

- ・国際社会における経験が豊富な黒田日銀総裁から見た我が国の政治・経済の現状について伺いたい。
- ・「物価安定の目標」の実現に当たって、金融政策は必要条件であるが十分条件でないと考えているが、日銀として政府に対する要望を伺いたい。
- ・物価ではなく名目経済成長率を金融政策の目標にすべきであるとする見解があるが、黒田日銀総裁の見解を伺いたい。

小池 政 就君 (みんな)

- ・本年1月22日の政策委員会・金融政策決定会合において決定された、当分の間、毎月、長期国債2兆円程度を含む13兆円程度の金融資産の買入れを行う「期限を定めない資産買入れ方式」の導入時期とその規模について、黒田日銀総裁の評価を伺いたい。
- ・黒田日銀総裁は、日銀のバランスシートにおいて、買入れた国債の計上方法が分かりにくい旨の発言をしているが、3月の政策委員会・金融政策決定会合で、資産買入等の基金で買入れる国債とオペで買入れる国債の統合案が、反対多数で否決されたことを踏まえ、今後、審議委員をどのように説得して進めていくのか。
- ・いわゆるアベノミクスに対し、海外からは円安誘導ではないかとの指摘もあるが、黒田日銀総裁の見解を伺いたい。

佐々木 憲 昭君 (共産)

- ・デフレの要因は、可処分所得の減少による家計消費の低下にあると考えるが、黒田日銀総裁の見解を伺いたい。
- ・インフレの定義と発生のメカニズムについて、黒田日

銀総裁の認識を伺いたい。また、通貨の過剰供給によるインフレの過去の発生例について伺いたい。

- ・国民は、賃金が上昇しない中で物価のみ上昇することを恐れている。日銀の「生活意識に関するアンケート調査」の結果においても、国民は物価上昇に期待をしていないと認められるが、黒田日銀総裁はどのような印象を持っているか。

鈴木 克 昌君 (生活)

- ・「資産買入等の基金」残高が70兆円にも達している中、デフレから脱却できていないのは、量的緩和政策の効果が乏しいということなのか、或いは金融緩和が不足しているということなのか、黒田日銀総裁及び岩田日銀副総裁の見解を伺いたい。
- ・「大胆な金融緩和」が「行き過ぎた金融緩和」とならないか懸念されるが、仮に「2年で2%のインフレ目標」の達成が困難となった場合の目標変更の可能性について伺いたい。
- ・岩田日銀副総裁は、3月5日の衆議院議院運営委員会において、インフレを2%程度にして税収を増加させたいと、財政再建の状況次第で消費税を増税しても遅くはない旨を発言している。したがって、今は消費税増税の必要性はないという理解でよいか。